

科目名	内部障害理学療法学	担当教員	信太 雅洋 森野 陽 小山 昭人 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	-----------	------	--

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年生	前期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR31E	②					

科目概要	呼吸器・循環器疾患に対するリハビリテーションについて学習する。呼吸器疾患に関しては、主にCOPD、間質性肺炎、肺炎に対する呼吸リハビリテーションについて、循環器疾患に関しては、主に虚血性心疾患、心不全、大血管疾患に対するリハビリテーションについて、その理論的背景から評価、治療までを中心に学習する。
学習目標	<p>【代謝障害（糖尿病）】</p> <p>① 2型糖尿病の病態および合併症を理解する。</p> <p>② 血糖コントロールに必要な検査、治療（食事・運動・薬物）について学ぶ。</p> <p>③ 患者教育の重要性について学ぶ。</p> <p>【呼吸器】</p> <p>① 呼吸障害ならびに呼吸リハビリテーションの概念を理解できる。</p> <p>② 疾患別の呼吸リハビリテーションについて理解できる。</p> <p>【循環器】</p> <p>① 虚血性心疾患、心不全、大血管疾患のリハビリテーションについて理論的背景を理解できる。</p> <p>② 心筋梗塞のリハビリテーション（評価、治療）を理解できる。</p>

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	オリエンテーション 呼吸リハビリテーション(1)	オリエンテーション 呼吸リハビリテーション概論	呼吸リハビリテーションの役割ならびに構成要素を理解する。	
2	呼吸リハビリテーション(2)	呼吸リハビリテーションにおける評価	呼吸リハビリテーションに必要な検査値、フィジカルアセスメント、運動耐容能、健康関連QOLの評価について理解する。	
3	呼吸リハビリテーション(3)	COPDに対する呼吸リハビリテーション	COPDに対する呼吸リハビリテーションの評価から治療の実際までの一連の流れを理解する。	
4	呼吸リハビリテーション(4)	間質性肺炎、誤嚥性肺炎に対する呼吸リハビリテーション	間質性肺炎ならびに誤嚥性肺炎に対する呼吸リハビリテーションの評価から治療の実際までの一連の流れを理解する。	
5	呼吸リハビリテーション(5)	急性呼吸不全、周術期の呼吸リハビリテーション	急性呼吸不全、周術期の呼吸リハビリテーションの評価から治療の実際までの一連の流れを理解する。	
6	心臓リハビリテーション(1)	オリエンテーション 概論	人体構造機能学を確認する。 心臓リハビリテーションの概要を理解する。	
7	心臓リハビリテーション(2)	循環器疾患の病態（虚血性心疾患・弁膜疾患・不整脈）	理学療法の対象となる、代表的な循環器疾患の病態を理解する。	
8	心臓リハビリテーション(3)	運動生理（特に運動耐容能や酸素運搬系）	運動生理（特に運動耐容能や酸素運搬系）について理解する。	
9	心臓リハビリテーション(4)	心臓疾患の評価（観血的評価・非観血的評価）	心臓疾患の観血的評価・非観血的評価について理解する。	
10	心臓リハビリテーション(5)	心臓リハ（心筋梗塞リハの病期区分と各期の考え方）	心筋梗塞のリハビリテーションの概要を理解する。	

11	糖尿病の概念	疾患の考え方、診断、糖尿病の経過と合併症	2型糖尿病の病態および合併症を理解する。
12	検査と治療	診断のための検査、臨床検査値、治療目標	血糖コントロールに必要な検査、治療（食事・薬物）について理解する。
13	糖尿病の理学療法	血糖コントロールのメカニズム 運動療法、リスク管理	理学療法の必要性を理解する。
14	患者教育	継続するための治療、患者心理と教育	患者教育の重要性について理解する。
15	まとめ	まとめ	本講義で学んだ事柄について、それぞれ関連付けて説明することができる。
<b>評価方法</b>		筆記試験 100%	
<b>課題に対するフィードバック</b>		1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。	
<b>教科図書</b>		【代謝障害（糖尿病）】 日本糖尿病学会編・著『糖尿病治療ガイド 2022-2023』文光堂、2022年 【呼吸器・循環器】 細田多穂・監『内部障害理学療法学テキスト 改訂第4版』南江堂、2022年	
<b>参考図書</b>		【代謝障害（糖尿病）】 清野裕 他・監『糖尿病の理学療法』メジカルビュー社、2015年 【呼吸器】 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会呼吸リハビリテーション委員会ワーキンググループ 他・編著『呼吸リハビリテーションマニュアル運動療法 第2版』照林社、2012年 高橋仁美 他・編『動画でわかる呼吸リハビリテーション 第3版』中山書店、2012年 玉木彰・編『15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 第2版』中山書店、2017年 千住秀明 他・監『呼吸理学療法標準手技』医学書院、2008年 医療情報科学研究所・編『病気がみえる（呼吸器）』メディックメディア、2013年 【循環器】 居村茂幸・監『ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション』羊土社、2009年 石川朗・総編集『15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝 第2版』中山書店、2017年 医療情報科学研究所・編『病気がみえる（循環器）第5版』メディックメディア、2021年	
<b>学習の準備</b>		（予習） 指定した教科書、もしくは事前に配布した資料について予習をしておくこと。（90分） （復習） 人体構造機能学Ⅰ（内臓・脈管系）、人体構造機能学Ⅱ（内臓・脈管系）、内部障害基礎論の講義内容を復習しておくこと。（90分）	
<b>オフィスアワー</b>		森野・信太：月・火・木・金曜日の16時30分から18時 小山：授業前後の30分間	
<b>担当教員欄に※印を付した教員の実務経験</b>			